

アミロイド硬結(AIns)の 糖尿病コントロールに及ぼす影響

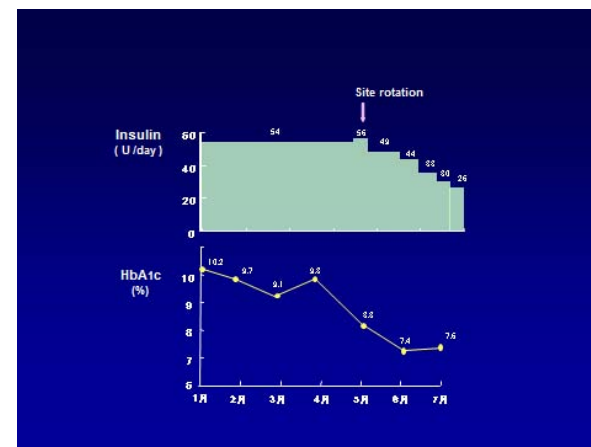
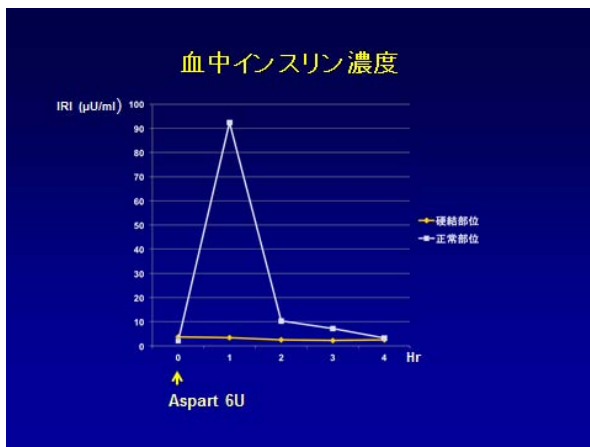
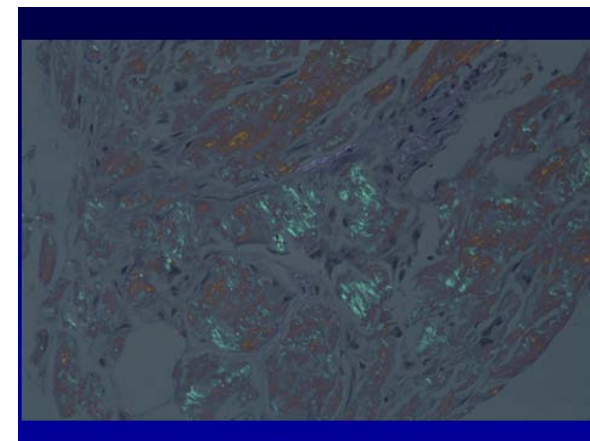
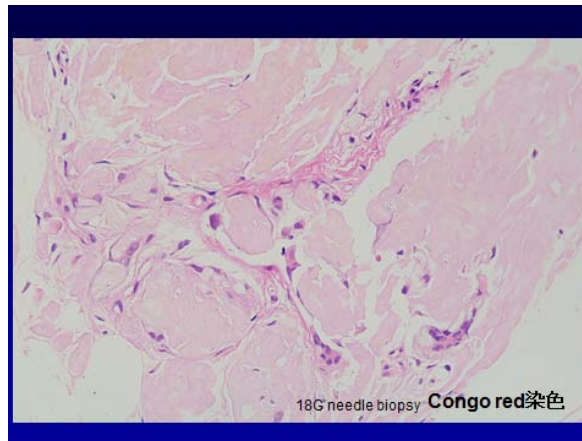
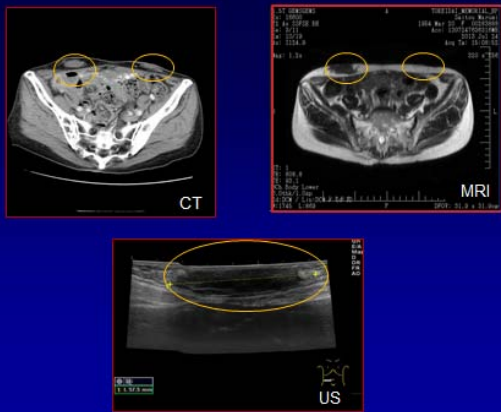
「インスリン硬結」とは、インスリンを同一部位に繰り返し穿刺することにより形成される皮下硬結の総称である。

臨床的には「脂肪肥大」として認識されていることが多いが、インスリンがアミロイドに変性して脂肪織に沈着して形成される硬結も存在する。

アミロイド学会ではこれを“AIIns”として分類しているが、その認知度は低く、見過ごされている可能性もある。

しかし、当院での現在までの検討では“AIIns”は従来考えられていたよりも発生頻度は高く、この硬結はインスリン吸収を阻害し、血糖コントロール悪化の原因となることが示唆される。

同一部位に繰り返しインスリンを穿刺しないように、rotation指導も含め臨床的に注意が必要である。



生検で“AIIns”と確定したインスリン硬結症例において検討；

- # 硬結部位におけるインスリンの吸収は阻害された
- # インスリン穿刺部位の変更により、血糖コントロールは改善した